

ろうさいラウンジ

勤労者医療と地域医療の中核病院として、
患者中心の安全で安心な質の高い医療を提供します。

呼吸器外科

診療開始に
あたって



先生紹介

外科副部長

穴見 洋一

(あなみ・よういち)

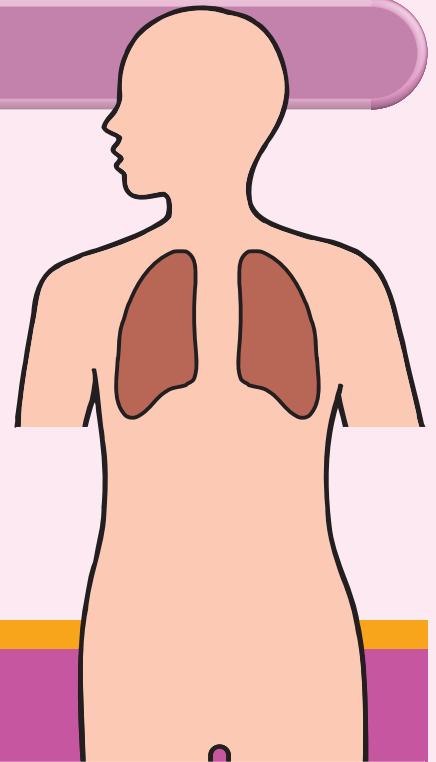
日本外科学会認定医

日本外科学会、日本呼吸器学会専門医

平成22年9月1日付けで東京労災病院外科副部長を拝命し、呼吸器外科専門医として肺がんを中心とした呼吸器外科の診療を開始しました。呼吸器外科診療開始にあたり、このような機会をいただきましたので、皆様に当科の特色をご紹介します。

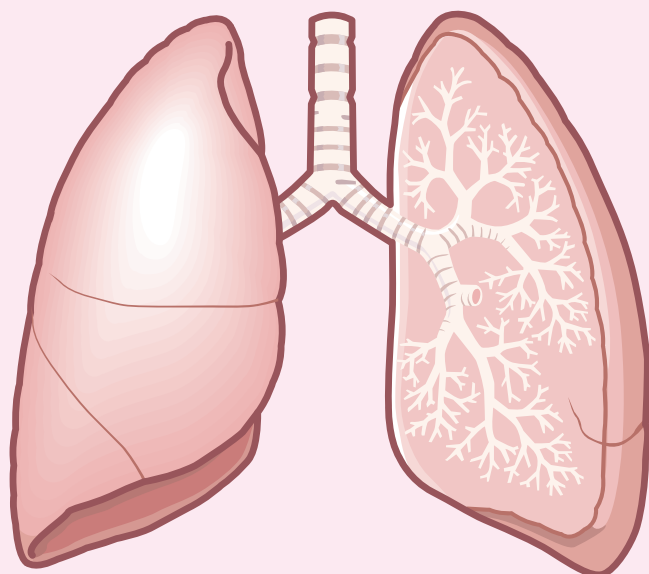
呼吸器外科とは

心臓と乳房以外の胸部の病気に関して、外科治療を中心として対応する診療科です。施設によっては胸部外科と呼ばれているところもあります。具体的には申しますと、対象とする疾患は i) 肺がん、ii) 縦隔腫瘍、iii) 気胸などの肺のう胞性疾患、そのほか肺・気管支の構造異常、胸部外傷、漏斗胸など胸郭の異常、など多岐にわたります。以下、代表的な疾患と当科での対応をご説明いたします。

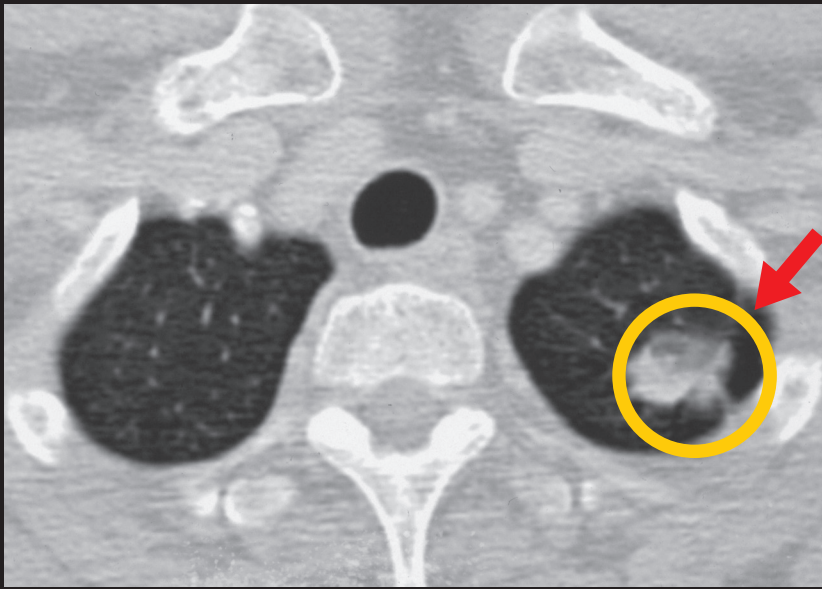


i) 肺がん

2007年の統計によると、日本でがんで死亡した人は約33万6千人で、肺がんによる死亡者数は約6万6千人（男性約4万8千人、女性約1万8千人）であり、男女とものがん死亡原因の第1位です（男性24%、女性13%）。先進国のなかでも喫煙率の高い日本では、人口の高齢化もあって、今後も増加することが予想されています。肺がんの治療においては「切除できるうちは切除する」ことが、抗がん剤治療や放射線治療よりも根治性が高く、外科切除が標準的治療です。一方、切除できない進行肺がんでは抗がん剤治療が中心となります。近年、新規抗がん剤が多く開発され、抗がん剤治療や放射線治療を行い、肺がんを小さくしてから手術するという集学的治療も行われつつあります。肺がんの外科治療では胸腔鏡という内視鏡を用いて、



小さな傷で肺の機能を温存するような治療法が普及しつつあります。当科でも肺がんの手術は胸腔鏡を用いて、小さな傷で体への負担の少ない手術を標準手術として積極的に行っています。また、当院では呼吸器内科のスタッフも充実していますので、内科の先生方との協力の下、進行肺がんの治療でも積極的に集学的治療を行うことが可能です。当科では肺がんでは患者さんの呼吸機能、肺がんの進行度によって患者さんに最も適した手術を選択しますので、どうぞ安心して受診してください。



胸部CTスキャン検査で発見された
肺がんの画像

最後に、肺がんはなんと言っても早期に発見することが重要です。肺がんは胸部レントゲンでは発見されにくく、CT検査で始めて指摘される場合も多くあります。長引く咳や血痰などの症状がある方、タバコを吸われる方やご本人は吸わなくても職場や家庭などでタバコの煙を浴びて入る方などは積極的にCT検査を受けることをお勧めします。加えてヘビースモーカーの方は痰の検査も必要です。

ii) 縦隔腫瘍

縦隔とは左右の肺に挟まれた、心臓、大血管や気管がある空間にできた腫瘍の総称です。そのため縦隔腫瘍は心臓や大血管の影に隠れてレントゲン写真では発見が難しく、かなり大きくなってから症状を伴って発見される場合もあります。診断には胸部CT検査が必要です。また、縦隔腫瘍は縦隔という場所にできた腫瘍の総称であるため、悪性腫瘍の場合もあれば良性腫瘍の場合もあります。手術で切除するまで確定診断ができないため、治療は手術による切除が第一選択となります。また、重症筋無力症という疾患の場合、例え腫瘍がなくても縦隔内の脂肪組織を切除することが重症筋無力症の症状の改善に大きく寄与する場合がありますので、外科手術の適応となります。一般的に縦隔腫瘍の手術では胸骨縦切開という方法が選択されます。しかし、CTやMRI検査で術前に良性腫瘍の可能性がかなり高いと診断される場合もありますので、当院では良性腫瘍の可能性が高い場合には、胸骨を切ることなく、胸腔鏡を用いて可及的に小さい傷での切除を行っています。



iii) 気胸などの肺のう胞性疾患



気胸とは肺にできたブラやブレブと呼ばれるのう胞が破れて肺から空気が漏れて、胸郭の中に空気がたまり、そのために肺が押しつぶされる状態です。気胸は発症年齢に二つのピークがあります。ひとつは20歳前後の若い男性、もう一群は喫煙を続けた70歳以上の高齢男性です。肺のつぶれかたが大きかったり、両方の肺に同時に起こると命の危険があります。当院では緊急入院への対応も整っておりますので、積極的にご連絡ください。また、女性の場合、月経に伴って気胸を繰り返す月経随伴性気胸という病態があります。この病気は、子宮内膜

組織が何らかの原因で胸腔内に入り込み、月経周期にあわせて脱落するため肺が破れるために起こります。治療は胸腔鏡を用いたごく小さな傷での手術を行っています。迷入した子宮内膜と破れた肺を部分切除します。その後、再発防止のため産婦人科と協力の上、ホルモン剤を内服したりする場合があります。女性の方で生理にあわせて胸の痛みなどを感じられている患者さんの場合、当科でお力になれる場合がありますので、お気軽にご相談ください。

そのほか、肺炎を繰り返す方や風邪を引くたびに発熱が長引き汚い痰が出続ける方は、気管支閉鎖症や肺分画症といった気管支や肺の構造異常による病気の場合がありますので、症状のある患者さんは、どうぞご相談ください。

当呼吸器外科は診療を始めたばかりですが、今後も地域医療に貢献できるよう、患者さんに安全で信頼に耐えうる診療科を築いていく所存ですので、よろしくお願い申し上げます。

